

みよみよ　はればれ　まんなか

美花果便り



Vol.67

都筑の町のほほまんなかで　　～その 67～

生きることはなかなか大変です。人間は考えるがゆえに、どうしたものかと立ち止まったり、動けなくなったりします。考えることがたくさんあったり、周囲の情報が多ければ多いほど、その状態に陥りやすくなるものです。現代社会は正にその状態で、その中で必要な情報を整理して、自分の進むべき方向を自分で決めるのはなかなか大変です。

訪問看護はお体が思うように動かなくなり介護が必要になった時に訪問することが多いのですが、ここ数年、メンタルが原因で生きにくい方の所に訪問することが増えました。それはそういう世の中の変化も大きく影響していると思います。そういう時に私たち訪問看護師は何をするのか？何をしてくれるのですか？と言う質問も良く聞かれます。 私たちは対話を積み重ねていきます。そうすることで情報を整理し、思考を整理します。いっぱいいっぱいになった頭の中を対話を繰返し、積み重ねる中で、必要なことと必要でないこと、とりあえず脇に置いておくこと、などに分けていきます。私たちはお話を伺う中で思ったこと、感じたことをこれからの選択のためにヒントとして置きます。そのヒントも参考にしながら、これから先の生き方をご自分で考えて取捨選択していただきます。

少し昔、家族や地域のコミュニティがもう少し濃くあったころには訪問看護がなくても出来ていたのかもしれません。皆が忙しく、ゆっくりと話を聞く時間もない中で、孤立して悪化してく状況を対話をすることでときほぐしていきます。顔を合わせて、声を聴いて、対話は心のマッサージです。　　松田

みよみよ看護
【訪問看護ステーション】

住所：〒224-0033
横浜市都筑区茅ヶ崎東 4-9-18
電話：045-949-6277　　FAX：045-949-6278
メール：e-matsuda@ni-care.jp　　ホームページ：http://www.ni-care.jp/



新規のご相談は、看護、リハビリ共にお受けできます！

「看」という文字は、手をかざしてよく見るという意味合いがこめられています。
中国の禅僧が我々の中に存在する宝を見極めよ、という意味で「看看（みよみよ）」といっているところから名前をつけました。
皆様の心の中にある宝物を大切に、お家での生活を支えます。

【新代表就任対談　松田宜之　×　創業者　松田栄子】

2026 年 9 月 1 日付で、株式会社エヌケアの代表取締役が交代しました。訪問看護ステーション「みよみよ看護」、地域密着型通所介護「まんなか」、居宅介護支援事業所「はればれ」を率いる新代表・松田宜之と、創業者・松田栄子による対談をお届けします。

■ 異業種からの、新しいチャレンジ



宜之　2024 年 4 月に入社し、事務長として勤めてきました。今も事務長をメインに、まんなかの現場にも入って働いています。役割も働き方も変わらず、代表取締役という責任を負うことになりました。今後ますます精進してまいります。

栄子　長男は小学 4 年生で都筑に移ってきてから、ずっと野球をやってきました。ちょうどその頃、私はあざみ野のデイケアで働き始め、その後は都筑区医師会の訪問看護ステーションの立ち上げに携わりながら、土日は息子たちの野球のグラウンドに通っていました。

宜之　訪問看護ステーションや在宅サービスを立ち上げて管理者をしながら、野球のサポートをしてもらった。その恩返しのつもりもあります。大学卒業後は大手電機メーカーに約 17 年勤め、日本と海外を転々としながら様々な経験をしてきました。経験も知識もない、想像もしなかった世界ですが、母への恩返しと、自分への新しいチャレンジです。

栄子　英語も得意で、タイ語や中国語もできるんですよ。

宜之　今の現場では、残念ながら何一つ活かされていません（笑）。ただ、言語はコミュニケーションの手段の一つ。その難しさを体験してきたことは、ケアの中でのコミュニケーションや支援の難しさと通じるところがあります。看護師さん、介護士さん、ケアマネジャーさんの苦労を横で聞いているだけでも、その大変さが分かる。無駄じゃなかったと思っています。

■ 新しい時代を担っていく存在として

栄子　入社してから、私のやり方について結構ズバズバ言われてきました（笑）。他のスタッフが言えないことも、息子だから言える。

宜之　やりたいことに対して「そのやり方は違う」と言っているのであって、やりたいこと自体を否定しているわけではないんです。

栄子　ずいぶんいろいろなところを変えてくれて、それは私だけでなくスタッフもすごく感じています。看護師の皆さんは現場を最優先に、時間も労力も惜しめない中で続けてきてくれましたから。

宜之　私はそれが本業ですので、当たり前のこと。皆さんがストレスなくケアに集中でき、「もっとこうしたい」が叶えられる環境は、まだ実現できていません。まだまだです。

栄子　心意気のある看護師がステーションを立ち上げてやっていく。それだけではもう立ち行かない時期に来ていると思います。この規模の事業所になればなおさらです。

■ これからの抱負

宜之　ビジョンは……特にないですね。

栄子　ないんかい（笑）。

宜之　まだまだ現役の創業者がおりますので（笑）。そのやりたいことが実現できるよう、環境を整えてついていきたいと思っています。

栄子　体力・気力が続く限り、まだやりたいことがあります。一つはオープンダイアローグを地域全体に広げていくこと。今「マグノリア」としてオープンダイアローグ研修を 10 回コースで開催していて、来年も「おかわり」をという声を何人もいただいています。そして日々の身体の看護、対話を通じてその人が前に進んでいけるよう手伝う精神の看護。何かの縁でこの地域で出会った方たちに、看護でお役に立てる形を提供していきたいですね。

宜之　オープンダイアローグは、前職で受けたリーダーシップやマネジメント、チームビルディングなどの研修にも全くなかった分野です。対人ケアの本質の核に触れている気がしました。技術ではなく、哲学ですね。事業所の根幹に据えていきたい。働きやすい職場にしたいと思います。

栄子　みんなでトレーニングを重ねて地域にも広めていけたら、生きやすい地域になるんじゃないかな。新代表本人は立つと背が高いので、ぜひ事業所へ会いに来てみてください。

宜之　今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。